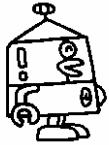


タンポポ、ナズナ、ヘチマの花のつくりのちがいを教えて



3つのちがいは、小花が多数集まっている、一つの花の中におしべとおしべがある、め花とお花に分かれているなどだね。

どんな花でも、めしべとおしべはある

ふつう、花には、めしべとおしべが必ずあります。花の役目は、おしべの花粉をめしべが受け取って(受粉^{じゅふん})、たねができ、その植物の子孫を残すことだからです。受粉しないと、たねも実もできないのです。ヘチマのように、めしべとおしべがめ花とお花に分かれている花もあります。

虫に花粉を運んでもらう花は、たいてい、花びらや、みつが出るしくみをもっています。風が花粉を運ぶスギやイネなどの花は、花びらがありません。また、チューリップのように、がくが花びらなどに変化して、がくがない花もあります。

花のつくりは、たいてい、よくにている

ナズナの花のつくりは、がく、花びら、おしべ、めしべからできています。

ヘチマの花は、花びら、がく、めしべとふくらんだ子ぼうをもつめ花、花びら、がく、おしべをもつお花の2種類があります。

タンポポは、花びらの1まいを引きぬいてみると、花びらの根もとにめしべやおしべ、たねができる子ぼう、がくが変化したかん毛(綿毛^{わたげ})があります。花びらの1まいずつが、小さな花で、それが集まって1つの花になっているのです。

花のつくりのちがいを

